



2022年 5月17日

日本鉄道労働組合連合会

J R 連 合 第 12 回 安 全 シ ン ポ ジ ウ ム

働く者の主体的な検証により、安全・安心な職場を構築し、JR産業の持続的成長に繋げよう

5月12日、JR連合は岡山市内において「第12回安全シンポジウム」を開催した。開催にあたっては、会場の感染症対策に万全を期した上で、オンライン視聴を併用し、内外へ参加を広く呼び掛けた。当日はJR連合加盟単組をはじめ、連合加盟産別、交運労協から総勢約300名（オンライン含む）が参集した。

本シンポジウムでは、「より安全・安心なJR産業の構築に向けて社会変容と向き合い、職場から安全の取り組みを検証しよう！」をテーマとし、JR各社で展開される業務改革や効率化施策、新技術の導入について、働く者の主体的な検証活動を通じて、安全・安心な職場を構築し、JR産業の持続的な成長に繋げていく決意を共有した。



第一部では、大原記念労働科学研究所の余村朋樹研究部長より「業務環境の変化と安全の取り組み」をテーマに組織安全のアプローチ、安全文化構築のポイントについて、本シンポジウムの基調となる講演をいただいた。さらに、JR九州の貞苺路也上席執行役員安全創造部長からは「JR九州の『ゆるぎなき安全』をつくる」として、JR九州の安全中期計画や安全創造運動の概要、新技術活用による効率的な働き方と安全性向上にむけた取り組みについてご紹介いただいた。

第二部では、単組・エリア連合からの取組報告として、JR西労組中央本部 田中伸樹執行委員、JR東海連合 奥村敬弥事務局次長から、それぞれ組織内で展開される安全の取り組みや新技術の活用例について報告を受けた。

第三部では、冒頭、航空連合航空安全局 大瀧恵一局長より、「リスク予知」の効果的な実践や「変更管理」の徹底など、「安全と変革の両立にむけた航空連合の取り組み」についてご紹介いただいたうえで、「社会変容と向き合い、様々な変化を余儀なくされる中で安全を最優先とした主体的な職場の取り組み」と題したパネルディスカッションを開催した。JR連合の宮野勇馬企画部長がコーディネーターを務め、前出の5名に引き続きパネリストとしてご登壇いただき、業務環境が変化する中、職場の現状・課題を掌握し、安全・安心して働くことのできる職場づくりにむけて討議を深めた。



パネルディスカッションの参加者
上段 左から順に
JR連合 宮野部長、大原記念労働科学研究所 余村部長、
JR九州 貞苺上席執行役員、航空連合 大瀧局長、
JR西労組 田中部長、JR東海連合 奥村事務局次長

最後にJR連合の鎗光俊勝労働政策部長は「持続可能な職場の構築に向けては、組織間におけるコミュニケーションの充実・強化が不可欠。JR連合のチーム力を高め、妥協なく、職場から厳しいチェック機能を果たしていこう」と力強く訴えた。